機関名	Q1-1	Q1-2	Q1-3	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q4-1	Q4-2	Q4-3	Q5-1	Q5-2	Q5-3	Q6-1	Q6-2	Q6-3	Q7-1	Q7-2	Q7-3	府省	国研
国立研究開発法人 情報通信研究機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	総務省	○
独立行政法人 酒類総合研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	財務省	
国立研究開発法人 理化学研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 物質・材料研究機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 海洋研究開発機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	文部科学省	○
国立研究開発法人 国立がん研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
独立行政法人 国立病院機構大阪刀根山医療センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	②	(b)	研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理に対応するように利益相反・責務相反に関する規程を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	できるだけ早期に、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
独立行政法人 国立病院機構東京病院	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	②	(b)	研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理に対応するように利益相反・責務相反に関する規程を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	できるだけ早期に、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
独立行政法人 国立病院機構相模原病院	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	②	(b)	研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理に対応するように利益相反・責務相反に関する規程を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	できるだけ早期に、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	○
独立行政法人 労働者健康安全機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	②	(b)	研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理に対応するように利益相反・責務相反に関する規程を、本年度中に、整備予定である。	②	(b)	国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を、本年度中に、整備予定である。	②	(b)	研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を、本年度中に、整備予定である。	②	(b)	研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを、本年中に、整備予定である。	②	(b)	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	できるだけ早期に、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
国立研究開発法人 国立医薬品食品衛生研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	②	(b)	できる限り早期に、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	②	(b)	できる限り早期に、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	②	(b)	研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	できるだけ早期に、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
国立感染症研究所	②	(b)	来年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明予定である。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	②	(b)	できる限り早期に、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	②	(b)	できる限り早期に、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	②	(b)	研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを、できる限り早期に、整備予定である。	②	(b)	できるだけ早期に、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	厚生労働省	
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	農林水産省	○
国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	農林水産省	○
国立研究開発法人 森林研究・整備機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	農林水産省	○
国立研究開発法人 水産研究・教育機構	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	農林水産省	○
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	経済産業省	○
国立研究開発法人 土木研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機関における関連ルール等について)説明している。	①	-	過年度より、研究活動の国際化・オープン化に伴う利益相反管理・責務相反管理をスコープに含む利益相反・責務相反に関する規程を整備・運用している。	①	-	過年度より、国際化・オープン化に関するリスクマネジメントを担う組織を明確にする等、研究インテグリティの確保に向けた組織体制を整備している。	①	-	過年度より、研究インテグリティの確保に向けて、研究者・職員から報告された情報をもとに組織としてリスクマネジメントする規程等を整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の事実関係を客観的に確認する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報をもとに、リスクを特定・分析した結果、リスクが高いと判断した場合に、リスクが顕在化する前に対処する仕組みを整備している。	①	-	過年度より、研究者・職員から報告された情報の更新（定期的な更新や、実質的な変化があった場合の更新等）を受けるための仕組みを整備している。	国土交通省	○
国立研究開発法人 建築研究所	①	-	過年度より、関係者に対して、説明会・研修・セミナー等で、研究インテグリティの確保について(研究活動の国際化・オープン化に関するリスク、政府の対応方針や指針の概要、該当機